

日本学術会議環境学委員会・地球惑星科学委員会合同 FE・WCRP 合同分科会
第 25 期 第 3 回 IGAC 小委員会

議事要旨

日時：令和 5 年 3 月 13 日(月) 13 時 00 分～15 時 20 分

開催場所：遠隔会議 (zoom)

出席者：猪俣敏、入江仁士、江口菜穂、笠井康子、金谷有剛、黒川純一、齊藤尚子、定永靖宗、須藤健悟、関山剛、滝川雅之、竹川暢之、谷本浩志、豊田栄、永島達也、中山智喜、原圭一郎、廣川淳、町田敏暢、松木篤、宮崎雄三、持田陸宏、米村正一郎、計 23 名

欠席者：植松光夫(連携会員)、張勁(連携会員)、森本真司 計 3 名

議題

- (1) 議事要旨の委員長一任について
- (2) 「大気化学の将来構想」の序論の内容について
- (3) iCACGP-IGAC2022, 2024 国際会議について
- (4) IGAC の各アクティビティ等の活動について
- (5) IGAC SSC 会議から
- (6) その他

4. 配布資料

資料 1： 「大気化学の将来構想」の序論案(ver 3)

資料 2： IGAC 関連書類

議題 1 に関して、

議事要旨作成のため録画を行うこと、および各委員への回覧を行ったのちの微修正等を含めた最終的な承認について委員長へ一任することに関して確認があり、了承された。

議題 2 に関して、

資料 1 に基づき、金谷委員長より「大気化学の将来構想」の進捗と構成等に関する

る冒頭説明があった。具体的には、各論についてはすでに査読と審査を終え、日本大気化学会の「大気化学研究」誌に掲載済みであること、今日議論する「序論」は、各論の内容や社会の動向を踏まえ、大気化学分野全体の研究方向性等を記述するものとしたこと、日本学術会議の「記録」とすることを指すとともに、各論と序論を束ねた全体版は日本大気化学会ウェブから公表する予定であるとの説明があった。植松委員からは、メールにて、親委員会の FE・WCRP 合同分科会が確認することを念頭に、フューチャー・アースや SDGsなどを意識した記述を充実すべきとの意見があったことが紹介された。

続いて、要旨と第 1 章について、金谷委員長から説明があり、議論した。「究極のゴール」や、それを踏まえた「今後 10 年に実施すべき課題」の記述について、関山委員や江口委員から、改訂により内容が改善された旨のコメントがあった。永島委員から、学際、超学際に関する説明の追記と、気候変動適応の語の追加について意見があり、取り入れることとした。

第 2 章については、竹川副委員長から、大気化学研究の社会的貢献、科学の方向性、分野間連携の在り方に関する記述内容の説明があった。永島委員から、章の冒頭部分で述べられている、これまでの 10 年の進展については、1 章に移すべきとのコメントがあり、修正することとなった。持田副委員長からは、究極のゴールと 10 年間の課題との対応関係をわかりやすく示すとよいとの指摘があり、改訂に取り入れることとした。宮崎委員からは、概念図にもある 4 極を、状態変数よりはサブシステムとして記述したほうがわかりやすいとの意見があり、修正に取り入れることとした。笠井委員からは、気候・健康の課題解決に直接当たるのは専門官としたほうがよく、研究者は学問的な追究を主としつつ、協業するのがよいとのコメントがあり、修正の際に加味することとした。金谷委員長からは、「大気化学に残る謎」とした部分について、より具体的な記述を増やしたいとのコメントがあった。

第 3 章については、谷本副委員長から、国際連携と国内連携についての記述内容について説明があった。行政関連の委員会の例示を拡張することとし、自治体とのつながりも今後の機会につながるとの議論がなされた。モデル相互比較 (MIP) についても言及を検討することとなった。

第 4 章については、持田副委員長から説明があった。各種プラットフォームの説明の中で、計算機については、須藤委員、滝川幹事、関山委員の意見を反映した内容となっている点を確認された。人材育成に関し、金谷委員長、谷本副委

員長が議論に加わり、博士後期課程への持続的なサポートや、海外ポジションと国内ポスト等の待遇面の格差、理工系への進学を医学系と合わせて選択肢としてもらうための研究分野の魅力の伝え方、などが話題となった。

最後に全体を通じた議論を行った。持田副委員長からの提案で、今後10年間に取り組むべき課題と、究極のゴールの間の時間スケールに位置付けられる課題についても、科学・夢ロードマップや未来の学術振興構想などに関連させた記述の追加を検討することとなった。最後に、金谷委員長から、急ぎ改訂を進め、年度末までに小委員会承認版として取りまとめたいとの今後のスケジュールの提示があった。

議題3に関して、

iCACGP-IGAC 2022 年会議（マンチェスター）の実施状況に加え、2024 年マレーシア・クアラルンプールでの IGAC 会議について、金谷委員長から説明があり、iCACGP も IGAC と合同で会議を主催する方向で議論されている旨の情報交換があった。

議題4に関して、

金谷委員長より、IGAC のアクティビティに森林火災に関する BBURNED が加わった点が示され、各アクティビティやワーキンググループの最新情報について情報交換があった。原委員から、CATCH の会議の日本誘致は、打診次第で検討するとの考え方が示された。永島委員、谷本副委員長、金谷委員長から、CCMI, MANGO, ACAM, PACES, TOAR-II についての情報共有がなされた。

議題5に関して、

金谷委員長から、IGAC SSC の最近のメンバー変更について報告があり、WHO の新たな大気質ガイドラインに関するコメント準備、Global south からの論文発表の推進方法など、最近の議論について説明があった。

議題6に関して、

金谷委員長から、2022 年 12 月に開催された FE・WCRP 合同分科会への IGAC 小委員会からの報告について、未来の学術振興構想への提出内容について、4 月に開催される ACIDRAIN2020 会議への日本大気化学会からの広告について、そ

れぞれ報告があった。また、谷本副委員長・持田副委員長より、iCACGP の SSC
メンバーの改選状況についても情報交換がなされた。

以上